

私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

2014(26)年 週 報

6月 8日
第2聖日
3355号

「テサロニケ教会の信仰の試練」
(I テサロニケ連続講演第十回)

聖言

このような苦難の中にあっても、動揺する者が一人もないようにするためでした。あなたが自身が知っているとおおり、私たちはこのような苦難に会うように定められているのです。テサロニケ I 3 : 3

礼拝の恵み⑩ 聖書が示す礼拝の權威の根拠
一、旧約聖書

「幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを。わたしがあなたに示すのと同じように作らなければならない。」(出二五ノ九)

幕屋はイスラエルにおいては礼拝と同一であったが、この幕屋を立てることに関する神の教示が詳しくモーセに与えられた。その後「そのとき、雲は会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。モーセは会見の天幕にはいることができなかつた。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋にみちていたからである。」(出四〇ノ三四、三五)

二、新約聖書

①これらの集会は、キリストを主と認める信者たちから構成されていた。「コリントにある主の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあつて聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であると共に、その全ての人々の主です。」(一コリント一ノ二)

②どこの集会もキリストとその言葉とに対する共通の忠誠という強い絆によって結ばれていた。

③集会の中で全ての信者が神の祭司と認められ、聖霊に導かれてその祭司職を行使していた。

④各集会は神のすべての言葉を受け入れ、神の御子を信じる者によって組織されていた

⑤これらの集会は教義を健全に信じ道徳的生活をおこなっていた。(「礼拝」APギブス著)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話 : F A X (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年六月一日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「食事と信仰」(合同召天記念礼拝説教)

「私の敵の前で、あなたは私のために食事をととのえ、私の頭に油をそそいでくださいます。私の杯は、あふれています。」

(詩篇二三ノ五)

ダビデほど戦いの多い人はいません。常に戦いの生涯を送っていました。ゴリアテ、サウル、アブシヤロム、常に死を覚悟していました。そのなかにおいても、主を信頼していました。それは主の臨在と、御言葉の戒めと励ましです。

マリヤはイエス様の頭に香油を注いで、髪の毛で足をふいて、歓迎しました。弟子達はもつたいたないと言い増した。イエス様はマリヤは葬りの用意をしてくれたことをとてもお喜びになりました。このように死と言う敵の前で食事ができると言うことは幸いです。悪魔は心配、恐れ、不安、お前は幸せにならない。とささやいてきます。しかし、そのようななかでも、食事、即ち御言葉によって心を満たし、香油である聖霊によって喜びをあたえてくださいます。

二〇一四年六月四日午後七時 祈禱会 山本牧師

「エルサレム包囲の粘土板」(エゼキエル連続講演第九回)

包囲されたエルサレムを表す粘土板(四ノ一〜三)

主はエゼキエルに、一枚の粘土板でエルサレムの町の模型を作り、また模型の町の回りに塁や塹壕を掘りつけ、陣営や城壁崩しなどを配置するように言われた。更に一枚の鉄の平なべを取り、それをエゼキエルと模型のエルサレムとの間に立て、そしてその平なべ越しに模型のエルサレムの町をしっかりと見詰めるように言われた。塁や塹壕で町を包囲し、城壁崩しなどで攻める方法は、古代バビロンやアッシリヤなどで用いられた方法で

あった。これらの象徴は明らかに、バビロン軍によるエルサレムの包囲を表している。エルサレムは数年後にはバビロン軍によって、この模型のように包囲されることになるのである。

ところで預言者と模型の町との間に置かれた平なべは、何を意味するのだろうか。敵との間ではなく、預言者との間に置かれている。しかも預言者は、「あなたの顔をしっかりとこの町に向けよ。この町を包囲し。これを攻め囲め」(三)と言われて、エルサレムを守る立場でなく、敵と共にエルサレムを攻める立場に立っている。険悪な顔つきでエルサレムを見詰める預言者の姿は、エルサレムを見詰める神御自身にほかならない。実に、エルサレムを包囲し、攻撃しているバビロン軍の背後にあつてエルサレムを攻めているのは神御自身なのである。そうだとすれば、鉄の平なべは神の守りの強さではなくて、逆に、神がエルサレムに下そうとしておられる審判の厳しさを表すことになる。主は、無数のアッシリア軍に攻められたヒゼキヤの前に鉄の城壁となつて、彼を救われた。その同じ鉄の平なべが、イスラエルの民が主から離れ、罪を犯している時には、神の裁きの厳しさの象徴になるとは何と悲しいことだろうか。改めて罪の恐ろしさを思わされる。「みてごらんさい。神のいつくしみとさびしさを。倒れた者の上にあるのは、さびしさです。あなたの上にあるのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどまっていればであつて、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。」(ローマー一ノ二二)

神は平和の神である。戦いは好まない。しかし、このところには聖都エルサレムが滅ばされるのが預言されている。エルサレムとエゼキエルの間鉄の平なべを立てるようにとの預言である。本来なら神様とエルサレムとの間に鉄の平なべが立て

られたなら、神の保護とわかるが、これでは神のエルサレムに
対する制裁と受け止められる。なぜそこまでするのか。それは
イスラエルを愛しているからです。本来エルサレムは神を礼拝
すべきであった。にもかかわらず、偶像を拝み、神を捨てた。
ゆえに神は彼らを捨てられた。始めに北イスラエルがアッシリ
ヤに滅ばされ、続いて南ユダがバビロンに捕囚にされる。数回
にわたり捕囚され、エゼキエルは最初に捕囚になり、テル・アビ
ブで預言活動を行っていた。私たちもエゼキエルと同じく日
本という捕囚の地に預言活動のために送られているのである。
オンヌリ教会は五、六年も同じ教会におられない。宣教地に行
くように言われる。私たちも自分の住むところが、宣教地と思
い、預言活動を行なわねばならない。一人でもこの世から救わ
ねばならない。なぜなら、この世は必ず神の裁きにより滅びる
からである。ノアの洪水で全世界が滅亡した如くである。救わ
れたのは箱舟に入っていたノアとその家族八人と動物の一つが
いただけであった。今のイエス・キリストの十字架を信じて罪の赦
しを受けるものだけが救われるのである。

韓国永遠の賛美チーム来日試案

日時 七月五日（土）～一五日（火）

人員 一〇名

コンサートの日程は計画中です。

六日（日）午後七時 賛美集会

七日（月）～一〇日（木）神戸各所で集会

十一日（金）大日丘コンサート（たこやき）

午後五時